

ハザードマップの使い方

高潮ハザードマップは、高潮の発生によって浸水が想定される区域及び避難場所等の情報を掲載しています。平常時から地域の危険性や情報の入手先、避難の心得等を確認しておき、災害が発生するおそれがある場合は、早急に危険な場所から避難しましょう。

家族で話し合おう

いざというときにあわてず適切な行動をとるため、高潮や洪水等の災害が起こる前からの準備が重要となります。日頃から災害への備えや災害時の行動について、家族や地域で話し合っておきましょう。

ステップ① 自宅の位置や避難場所を確認しましょう。

国道や県道の位置、学校や公共施設などの位置を参考に、自宅の位置や避難場所を確認しましょう。

私の家はココね、要チェック!

〇〇小学校が避難所だね。

ステップ② 高潮の時に危険となる場所を確認しましょう。

自宅周辺にある水路・港など高潮の時に危険となる場所を確認しましょう。

危険なところは避けるようにいきましょう。

避難経路はココね。

ステップ③ 危険箇所を避けて、避難経路を設定しましょう。

②で確認した高潮の時に危険となる場所を避けて、避難経路を設定しましょう。

〇〇小学校が避難所だね。

ステップ④ 実際に避難経路を歩いてみて、安全が確認しましょう。

家族や地域で話し合いながら、実際に歩いてみましょう。避難経路に危険な箇所がある場合には、避難経路を見直しましょう。

こっちの道の方がいいかな。

ステップ⑤ 非常持ち出し品・備蓄品を準備しましょう。

右側に記載の「非常持ち出し品・備蓄品」を参考に、被災時に必要となるものを準備しましょう。

ステップ⑥ わが家の防災メモに記入しましょう。

普段から指定緊急避難場所・指定避難所を確認して、「わが家の防災メモ」に記入しましょう。安否確認のために家族や知人、親戚等の連絡先を記入しておきましょう。

避難場所は……

高潮発生の仕組み、高潮と津波の違い

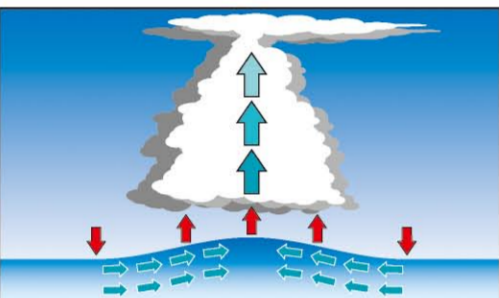
高潮発生の仕組み

高潮とは、台風や発達した低気圧等が接近するとき、海面が著しく高くなる現象です。高潮で潮位が高くなっているときに高波が押し寄せると、海水が堤防を越える場合があり、浸水の被害をもたらすおそれがあります。特に、高潮の被害を受けやすい場所として、海岸近くのゼロメートル地帯、湾奥部、急深な海底地形を持つ海岸などがあります。

高潮が発生するメカニズムとして、主に次の2つが挙げられます。低気圧による海面の吸い上げと、風による吹き寄せです。

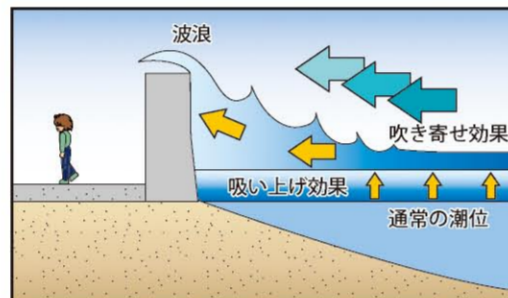
気圧低下による海面の吸い上げ

台風や低気圧の中心は、周辺部より気圧が低いため、気圧の高い周辺部の空気が海水を押し付け、中心部の空気が海面を吸い上げます。その結果、台風や低気圧の中心部の海面が高くなります。



風による吹き寄せ

台風や低気圧による強風が海岸部に向かって吹き続けると、海水が海岸部に吹き寄せられるため、海岸付近の海面が上昇します。



高潮と津波の違い

高潮と津波の大きな違いは、その発生要因にあります。高潮は台風や低気圧等によって発生するのに対し、津波は地震や海底火山の活動に伴って発生します。津波の要因となる地震や火山活動に比べて、台風や低気圧等は観測しやすいことから、高潮の発生の方が予測しやすいという特徴があります。

災害時に発表される情報の内容・避難行動

警戒レベル	市民のみなさんがとるべき行動	西尾市	気象庁等
5	危険な場所からまだ避難出来ていない方は、命を守るための最善の行動をとる 命が危険な状況です。逃げ遅れた場合は、安全を確保し、命を守る行動をしましょう	緊急安全確保 災害がすでに発生、切迫している状況 安全を確保し、命を守る状況 ※必ず発令される情報ではありません。	高潮氾濫発生情報
4	危険な場所から全員が避難を完了 暴風や道路冠水等により、避難が困難になる前に避難を完了する ■速やかに、避難場所や安全な場所へ避難するか、屋内で安全を確保しましょう ■自宅等から外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所へ避難しましょう ■お互いに助け合い避難しましょう	避難指示 被害が発生するおそれが高まった状況です 全員が避難を完了する状況	高潮警報または高潮特別警報
3	危険な場所から高齢者等は速やかに避難 ■いつでも速やかに避難できるように、準備しましょう ■正確な情報入手しましょう ■お年寄りや身体の不自由な方は、避難を開始しましょう	高齢者等避難 被害が発生するおそれがある状況です 避難に時間を要する人は避難を開始する状況	高潮警報に切り替える可能性が高い注意報

水平避難(立退き避難)と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、高潮氾濫発生情報が発表されているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、高齢者等避難や避難指示が発令されている、危険な場所からはなれる(水平避難)だけでなく、近隣の高い堅牢な建物の2階以上といった高所への避難(垂直避難)するという判断も必要です。

土砂災害の危険がある場合
かけと反対側の2階以上へ避難します。
何よりも命を守る行動を!!

どうしても避難場所等にたどり着けない時は、近隣建物の高層階や、自宅の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。

各情報の発表基準等について

高潮氾濫発生情報
水位周知海岸(高潮によって相当の被害が生じるおそれがある海岸)において、基準観測所の潮位が高潮特別警戒水位に達した時に発表されます。

高潮特別警報
数十年に一度発生するような強い台風や低気圧等により高潮になると予想される場合に発表されます。

高潮警報
台風や低気圧等によって潮位が著しく上昇し、**重大な災害が発生するおそれがある場合**に発表されます。

高潮注意報
台風や低気圧等によって潮位が著しく上昇し、**災害が発生するおそれがある場合**に発表されます。高潮注意報には2つのレベルがあり、警報に切り替える可能性が高いものは警戒レベル3、警報に切り替える可能性を言及していないものは警戒レベル2に区分されます。

早期注意情報(警報級の可能性)
気象庁は、5日前から警報級の高潮、暴風、波浪、大雨等が発生する可能性がある場合に、早期注意情報を発表しています。発表された場合は、その後の経過に注意しましょう。

わが家の防災メモ・非常持ち出し品・備蓄品

災害別	集合場所	避難先(第一候補)	避難先(第二候補)

家族等の連絡先
※被災地外の親戚・知人も記入しておきましょう。

氏名	電話番号	メールアドレス

非常持ち出し品の例

- 非常持ち出し袋
- 食料関係
 - 乾パン、ビスケット
 - 飲料水
- 衣類
 - 上着
 - 下着
 - 靴下
 - ブランケット
- 生活用品
 - 懐中電灯
 - 携帯ラジオ
 - ティッシュペーパー
 - 軍手、手袋
 - コンタクトレンズ
 - 入れ歯
- 衛生用品
 - タオル
 - トイレットペーパー
 - マスク
 - 紙おむつ
 - 生理用品
 - 簡易トイレ
 - 体温計
 - 消毒薬
- 救急用品
 - 救急袋
 - お薬、お薬手帳
- 貴重品
 - 現金(小銭も)
 - 貯金通帳、はんこ
- その他
 - ヘルメット

備蓄品
最低でも3日分(可能であれば1週間分)の物資を用意し、自宅や自家用車内等に保管しておきましょう。

備蓄品の例

- 飲料水(1人1日3ℓが目安)
- 食料(米、即席麺、レトルト食品、チョコレート等)
- 燃料(カセットコンロ、予備のボンベ、ランタン等)
- 毛布、タオルケット、寝袋
- 洗面用具
- 鍋、やかん
- 割り箸、紙皿、紙コップ等
- ラップ、アルミホイル
- ウェットティッシュ、トイレットペーパー
- 生理用品
- 消毒用エタノール
- 安全靴
- ブルーシート
- 新聞紙
- 使い捨てカイロ
- 簡易トイレ
- 予備のめがね、補聴器、つえ
- 工具類(ロープ、スコップ等)

ローリングストック
備蓄食料・飲料水等の保存期間が切れる前に消費し、その分だけ新たに補充して、常に一定量のストックがある状態を保つことを「ローリングストック」といいます。定期的に古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、また、いざというときに期限切れで使えなくなることを防ぎます。

情報の入手先

いざというときは、テレビやラジオ、インターネットから積極的に気象情報や避難情報を入力しましょう。また、ハザードマップに記載されている避難施設については作成時から変更されている場合があるため、最新の情報については、**西尾市防災アプリやホームページ**をご確認ください。情報は可能な限り平常時に調べておきましょう。

情報入手

自ら進んで情報を入手しましょう。

防災無線

市内に設置したスピーカーから、災害情報や避難に関する情報をお知らせします。

インターネット

各機関のホームページから、市の防災の取り組みや災害情報、防災情報などについて、情報提供を行います。

西尾市ホームページ

<https://www.city.nishio.aichi.jp/>

西尾市ツイッター

https://twitter.com/nishio_city

西尾市フェイスブック

<https://www.facebook.com/kohonishio/>

西尾市LINE公式アカウント

@nishiocity

愛知県防災安全局ホームページ

<https://www.pref.aichi.jp/bousai/>

名古屋地方気象台

<https://www.jma-net.go.jp/nagoya/>

気象庁キキクル(危険度分布)西尾市

https://www.jma.go.jp/bosai/#area_type=class20s&area_code=2321300&pattern=rain_level

西尾市防災アプリ・防災メール

西尾市の防災情報を集約したスマートフォンアプリを配信しています(要ダウンロード)。防災無線の放送内容や、避難所、ハザードマップなどが確認できます。防災メールで防災無線の放送内容を確認することもできます(要事前登録)。

情報伝達の流れ

高潮による被害が予想される場合は、気象庁や西尾市等から、防災無線やアプリ、メール、ツイッター等で情報を発信します。

西尾市	市民のみなさん
緊急安全確保	防災無線
避難指示	西尾市防災アプリ・防災メール
高齢者等避難	緊急速報メール(エリアメール)
気象情報	ホームページ・ツイッター・フェイスブック・LINE公式アカウント
	市広報・消防団による広報
	報道(テレビ・ラジオなど)

災害用伝言ダイヤル 171
171(NTT 東日本) にダイヤルがガイダンスが流れる

録音の場合 1
再生の場合 2

市外局番から電話番号を入力
被災地の方は自宅の電話番号を
被災地以外の方は被災地の方の電話番号を
(区)区(区)区(区)区(区)区(区)区

伊勢湾台風

1959年9月に発生した伊勢湾台風においては、死者・行方不明者数が5,000名を超えました。そのうち約8割が愛知県と三重県に集中しており、これは高潮が発生したことが関係しています。この台風では観測史上最大となる3.55mの高潮が発生し、日本最大のゼロメートル地帯である濃尾平野に襲撃し、西尾市でも被害が生じました。この災害が契機となって1961年には日本の災害対策の礎となる「災害対策基本法」が制定されました。

伊勢湾台風以前の高潮災害を伝える史料

正法寺(津なみの標、高潮標)	宝珠院(海潮記念碑、三界異雲碑)	大八幡社の境内に
正法寺の境内には高潮被害の水面を示した碑が2基建てられています。右側の碑は1889年(明治22年)の高潮被害を伝える「津なみの標」で、左側の碑は1953年(昭和28年)の台風13号による高潮被害の水面を記した「高潮標」です。	宝珠院の境内には1889年(明治22年)の高潮被害を伝える「海潮(かいしゅう)またはつなみ」記念碑があります。この碑には、高いところで約4.6mの高さの海水が押し寄せたことや堤防がほとんど流されたことなどが記されています。	大八幡社の境内には、1889年(明治22年)の高潮被害に関する記念碑と、1953年(昭和28年)の台風13号に関する記念碑が建てられています。

愛知県防災局危機管理課ホームページ「歴史地蔵記録に学ぶ防災・減災サイト」より引用

高潮被害の歴史